

九月五日、久しぶりの月曜朝礼をオンラインで行いました。真つ黒に「こげた!」子どもたちの顔を想像しながらお話ししました。

朝晩、秋らしくなってきたので、今日は「秋の七草」の話をします。

「春の七草」は、食べられる植物ばかりで、お正月明けの七草がゆなどで食べたことがあり、知っているという人が多いと思います。

「秋の七草」は、山上憶良(やまのうえのおくら)という人が詠んだ、万葉集にある二つの歌がもとになっています。

「秋の野に 咲きたる花を 指折り (およびをり) かき数ふれば 七種 (ななくさ) の花」↓(秋の野に咲いている草花を指折り数えると七種類ある。)

「萩の花 尾花 葛花 なでしこの花 をみなえし また藤袴朝がほの花」↓(それは萩の花、尾花、葛の花、なでしこ、おみなえし、また、ふじばかま、朝がおの花。)

「尾花」は、「すすき」の別名。すすきの穂が動物の尾に似ているので「尾花」と呼ばれたようです。最後に出て来る「朝がほの花」というのは、現在のアサガオではありません。アサガオは、平安時代に薬草として中国から伝えられた植物。山上憶良さんの時代には、まだ日本にはありませんでした。

それでは「秋の七草」の「朝がほ」とは、どの植物なのでしょう。諸説あるようです。

が、「キキョウ」のことを指すという説が有力です。

一部を言い換えて、順番を並べ直すと、

おみなえし すすき ききょう なでしこ

ふじばかま くず はぎ となつて、頭の字

を読んでいくと「お好きな服は?」。昔から言われてきた、語呂合わせで覚える方法です。



「尾花」については、「幽霊の正体見たり 枯れ尾花」ということわざもあるので、「尾花」＝「すすき」は、今日覚えてください。

「朝がほ」はアサガオではなくて、「キキョウ」のことだと言いましたが、キキョウは紫色のきれいな花で、昔は「阿利乃比布岐」アリの火吹き」と呼ばれていました。

キキョウの花でアリをたたくと、アリが怒って花にかみつく。すると、キキョウの紫色の色素「アントシアニン」が、アリの「胃酸」によって赤く変色します。かんで赤くなった部分が、まるで火を吹いたように見えることから、「アリの火吹き」と呼ばれたようです。

小学生の頃、何かの本でこのことを知り、一度実験したいと思いつつも、いまだに果たせていません。誰か、アリさんにケガをさせ

ない程度に実験して、結果が分かったら是非とも教えてください。

「クズ」も紫色のすてきな花が咲くそうです。恥ずかしながら私は、凶鑑でしか見たことがありません。このクズの根っこを乾燥させて粉にしたのがくず粉。くず粉で作るのが「くずもち」。関西では、くず粉を使わずもちをよく食べるようです。それから、「葛根湯」かつ「こんとう」なんて聞いたことはありませんか。風邪薬などに入っている「葛根」もクズの根からとります。クズの花はブドウのようなにおいがするそうです。本当かどうか、実物を嗅いでみたいですね。

野に咲くフジバカマは、今や絶滅危惧種だそうなので、本物にお目にかかることはまずできません。凶鑑だけではなく、極力実物に出合つて、自分の目で確かめる。五感をなるべく使つて、触ったり、においをかいだりしたいものです。

五感を使うのは大切なのですが、「味覚」を使うには注意が必要です。「アサガオ」の話が出ました。一年生が育てたアサガオ、もう種ができています。アサガオの種は、「ケンゴシ」という漢方薬の材料で、下剤です。食べると大変なことになるので、決して「味覚」の乱用をしてはいけません。

秋はキノコの季節。知らないキノコの味覚チェックも、危険ですからやめてください。(立教小学校校長 田代 正行)